

sham ope 群④を加えた。移植後1ヶ月及び9ヶ月で各群の血中 ACTH 濃度を RIA 法で測定、更に体重、内分泌関連臓器重量、脳組織標本を検討した。またインスリン負荷を加え ACTH の反応を観察した。[結果] 血中 ACTH は、同種C (-) 群②及び sham ope 群④では測定されなかった。一方同種C (+) 群①, 同系群③で ACTH が測定された。移植した下垂体は9ヶ月後も脳内に生着しており酵素抗体法により ACTH および PRL 産生細胞が同定された。

10) 慢性腎不全における GH の奇異的反応について

吉岡 光明・斉藤 秀晃 (新潟県立中央病院 内科)
下条 文武・荒川 正昭 (新潟大学第二内科)

慢性腎不全時にみられる内分泌環境の異常は、多彩であり、下垂体前葉ホルモンに関しても様々な報告がある。今回、我々は TRH 及び LHRH 試験における成長ホルモン (GH) の奇異的反応の有無と、最近、GH の分泌試験として利用されている GRH 試験を行なった。対象及び方法：血液透析を受けていない血清クレアチニン濃度 3mg/dl 以上、空腹時血糖 100mg/dl 以下の慢性腎不全患者11名。TRH 500 μ g, LHRH 100 μ g, GRH 1 μ g/kg を各々最低1週間の間隔をおいて静注した。結果：TRH 試験で GH の奇異的反応は11例中4例、LHRH 試験で GH の奇異的反応は11例中4例にみられ、うち2例は同一症例であった。GRH 試験における GH の反応は7例中6例にみられ過剰反応を示した1例は TRH 及び LHRH に奇異的反応を示した。考察：慢性腎不全時の GRH 刺激に対する GH 反応はおおむね良好で、TRH あるいは LHRH に対する GH の奇異的反応の有無とは一定の関係がなかった。

11) GRF test in Acromegary

田村 哲郎・黒木 瑞雄
横山 元晴・田中 隆一 (新潟大学脳神経外科)

未治療活動性 Acromegary 7例 (男4, 女3, 年齢 43~67才) に GRF test を行い、免疫組織化学的検索の結果と対比した。

GH は7例中5例で基礎値の2倍以上に増加し、GH cell adenoma でも Mixed GH/PRL cell adenoma でも反応がみられた。高 PRL 血症はなく、全例 PRL は GRF に無反応であった。免疫組織化学的検索は酵素抗体間接法を用いた結果、GH cell adenoma 5例、Mixed GH/PRL cell adenoma 2例であった。Albright Syndrome の1例は、Mixed GH/PRL cell adenoma であったが、GRF test の結果は他の症例と類似しており、GRF 過剰、または GRF に対する Hypersensitivity によるとは考えられなかった。

GRF に対する PRL の反応は、GH cell および Mixed GH/PRL cell adenoma ではみられないと考えられるが、Mammomatotroph cell adenoma に関しては、今後の問題である。

教育講演

「多嚢胞性卵巣症候群(PCOD)の最近の考え方」

講師 佐藤 芳昭 先生

特別講演

「GRF の臨床応用に向けての基礎的検討」

神戸大学医学部医学研究国際交流センター

教授 千原 和夫 先生